

# Congratulations!

## TAC / W セミナー で合格を実現!

# 合格体験記

次はあなたの番です!

### 司法試験合格



K.A.さん

合格実績 2014年度 司法試験  
出身校 東京大学 法学部 (在学) 受講歴 4A基礎講座

#### Profile

大学3年時より中村講師考案の4段階アルゴリズム(4A)を学ぶ。そのわずか8ヵ月後に予備試験に合格し、翌年(2014年度)の司法試験に見事一発合格を果たす。

### 私が「4A基礎講座」を選んだ理由!

問題を解けるようになるイメージが湧いたこと、このことに尽きます。

4A基礎講座の体験講義を受けてみた際、この講義を受け続ければ予備試験(ひいては司法試験)の論文式試験問題を解けるようになるかもなあ、なりそうだなあと思えたのが、私が4A基礎講座を選んだ決め手でした。

それは、他の予備校で受講した、わかりやすく面白ければどうやったらこの講義を受け続けて論文式試験問題を解けるようになるのかな...?と感じてしまう講義とは、全く異なるものでした。

### 中村講師(4A基礎講座)のココがオススメ!

#### ◆ 講義(講師)編

4A基礎講座の素晴らしい点は、条文を最大限利用することにあります。

論文式試験の現場で唯一参照できる条文を、普通の講義からアウトプット・インプット両面においてとことん利用して学習していくことで、少ない学習量、記憶量でも試験現場で効果を発揮しやすい、いわばコストパフォーマンスの良い学習をすることができるのです。

それに加え、試験現場で未知の問題に遭遇した際の対処法の訓練を積むことができるのも、4A基礎講座の素晴らしい点です。というのも、中村先生は講義の際、演習問題が未知の問題だった場合を常に想定し、その場合どのような思考をたどって、どのように条文や問題文の事情を利用してそれを解けばよいのかを、丁寧に、丁寧に、解説して下さるのです。

また、4A基礎講座では各科目のアウトプット講義の後にインプット講義があるというカリキュラムになっているということもあります。あまり知識が入っていない段階で問題演習をするので、未知の問題だらけだというわけです。(笑)

#### ◆ 教材編

4A基礎講座のテキストは、各科目につき4A論文解法パターンテキストと4A条解テキストの2冊からなりますが、何といてもインパクトがあるのは、インプット用教材である4A条解テキストのコンパクトさでしょう。7科目分を合わせても、せいぜい基本書2、3冊程度の厚さです(しかも、条文の文言まで掲載されています)。

試験対策に必要な知識が限界まで絞り込まれ、その知識が条文を最大限利用して整理されているからこそ、このテキストが実現しているのだと思います。コンパクトだけに、一見するとわかりにくいと思う方もいるかもしれませんが、このテキストは4A基礎講座の受講や自習を経て完成します。その暁には、最小限のことが過不足なく書かれている最高のテキストになるはずです。

また、アウトプット用教材である4A論文解法パターンテキストもそれに負けない教材です。法科大学院の入試問題などの演習問題が厳選されており、最も少ない行政法で15問程度、最も多い民法でも40問程度しか掲載されていません。

4A論文解法パターンテキストやそれを使った4A基礎講座の講義では、パターンが整理され、その問題限りでなく他の問題にも通じるような思考のたどり方、条文や問題文の使い方などが丁寧に解説されるため、ごく少ない問題演習をするだけで他のあらゆる問題に対応することができるのです。

### 予備試験合格



T.K.さん

合格実績 2014年度 予備試験  
出身校 成蹊大学法科大学院(卒業) 受講歴 4A基礎講座

#### Profile

仕事と並行しながら、4A基礎講座を通信講座で受講。社会人受験生として、本年(2014年度)見事予備試験に最終合格。

### 私が「4A基礎講座」を選んだ理由!

4A基礎講座は「問題の解き方を教えてくれる」画期的な内容!

私は、何十年と勉強してきた超ベテランで、一定程度の知識はありましたが、その知識が本試験に全くフィットしていない状態でした。私には、知識を必要最小限の範囲に絞り込みかつその知識の使い方を教えてくれる講座が必要でした。以前受講した他校の講座では、分厚いテキストが配布され、単に沢山の網羅的な知識を教えられたにすぎませんでした。この点、2013年から新しく始まったTAC/Wセミナーの4A基礎講座は、中村先生が全て一人で責任をもって各科目2冊ずつのテキスト(4A論文解法パターンテキスト及び4A条解テキスト)を作成し(知識が真に必要な最小限の範囲に絞られている)、これに基づいて試験問題の解き方を教えてくれるという画期的な内容であり、この講座以外に選択の余地はありませんでした。

### 中村講師(4A基礎講座)のココがオススメ!

#### ◆ 講義(講師)編

まず、中村先生は非常に信頼のおける講師で親身になって指導してくれます。「勝利のアルゴリズム\*」というブログを見ていただければ、いつもブレない記事やコメントへの丁寧な返答等で中村先生の人柄は分かってもらえると思います。

そして、4A基礎講座は、他校の講義と全く質が違います。真に試験に必要なことしかやりません。

講義の初日から過去問を解きます。

①問題文の読み方、②問題文からの思考の仕方、③問題を説く際に必要な条文と法律知識の伝授、④答案の組み立て方、⑤答案作成まで、試験の本番当日に現場でやらなければならない作業を中村先生がその場で思考して示してくれるので、受講生と一緒に考えながら講義を聴くことで自然と力がつくようになっていきます。本番では講義どおりの思考ができれば必ず合格できます。

ちなみに、他校のよくある分厚いテキストにマーキングしてるだけの講義と比べたら差は歴然ではないでしょうか。

\*勝利のアルゴリズム

中村充 ブログ 検索  
<http://ameblo.jp/4-algo-rhythm/>

#### ◆ 教材編

まず、4A論文解法パターンテキストも4A条解テキストも中村先生がゼロから一人で真に試験に必要な事項に絞って執筆された点が信頼できます。他校の類書では実際誰が書いたのか分かりません。

4A論文解法パターンテキストの素晴らしい点は、①問題数が必要最小限に絞られていること、②解答過程がきちんと示されていること、③条文を重視した答案例が記載されていること、です。特に、③については「条文が大事だ!」と教えてくれる合格者は沢山いますが、それを示した解答例を記載しているのはこの4A条解テキストしかありません。

4A条解テキストの素晴らしい点は、どのテキストよりもコンパクトでありながら最も網羅性が高く正確な記載がされている点です。例えば、民事訴訟法の論点に代償請求が単純併合か予備的併合かというものがありますが、他校のテキストでは誤魔化した記載がなされているところ、本テキストでは正確な記載がなされています。

# 司法試験は、なぜ難しいのか？

司法試験（予備試験・法科大学院入試）は、短期間で合格していく方がいる一方、5年～10年という非常に長い期間をかけてもこのような差がついてしまうのは、いったいなぜなのでしょう？

合格できない、「永遠に受からない」受験生も少なくありません。

## 1 司法試験が難しい原因は？

司法試験の歴史の中で、**大多数の受験生や教育機関が、「知識の理解・記憶 (INPUT) が司法試験における合格・不合格の原因であり、同時に対策でもある」と主張してきました。**これが、今なお司法試験受験界の多数説です。

**Q** 司法試験の合否を分ける原因（対策）は何だと思いますか？

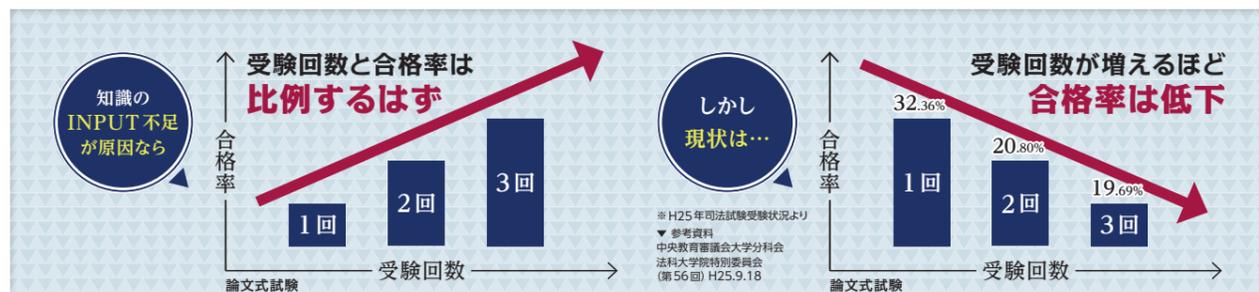
**A** 知識のINPUTが不足していたのかな…？ **不合格者**

**A** 知識のINPUTが足りていたのかな…？ **合格者**

**A** まずは基本書やテキストのマスター (INPUT) を優先しなさい！ **教育機関側**

そのため、これまでの司法試験受験業界では、**知識の理解・記憶 (INPUT) を試験対策としてきました。**

**しかし** 「知識のINPUT不足が原因である」と仮定すると、試験の対策など立てなくとも、ただ真面目に努力し続ければ、いずれ結果はついてくることになります。知識の質と量は、勉強期間が長くなるほど上がっていくため、**受験回数が増えるほど「INPUT」の量も増えるため、受験生の合格率は上がっていくはず**です。しかし、司法試験の実態はそれとは正反対です。**司法試験では、受験回数を重ねれば重ねるほど、受験生の合格率は下がっていきます。**そして、「永遠に受からない受験生」は、今なお受験界に大量に存在しています。



これはすなわち、司法試験の合否を分ける原因（対策）が、**知識の理解・記憶 (INPUT) にはない**ことの何よりの証です。

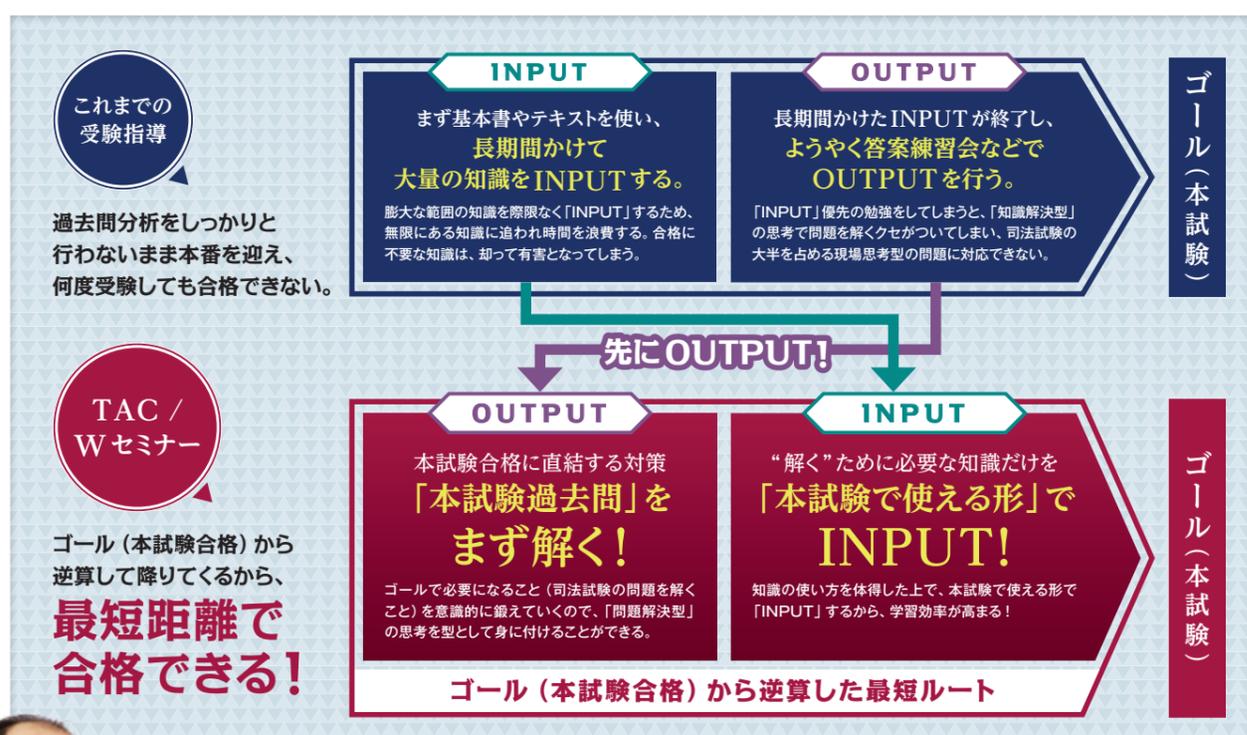
このように、受験生・教育機関の双方が、**司法試験に合格する (させる) ための真の原因 (対策) を特定できていない**ことが、司法試験が難しい原因なのです。

## 2 TAC/Wセミナーの提案する対策！

司法試験の合否を分ける原因（対策）をINPUT面に求める多数派受験生・教育機関の主張は、完全に誤っていました。**「絶対に間違いのない対策」を立てるには、「絶対に間違いのない原因」に立ち戻らなければなりません。**

司法試験で、不合格になってしまう真の原因…  
**本試験問題を解けなかったから、合格できなかったのではないですか？**

**そこで** 本試験問題を解けなかった、この原因に対応する「絶対に間違いのない対策」、それは「司法試験の問題を解くこと」です。この「司法試験の問題を解く (解ける) こと」は、皆さんの目指すゴール (目的) そのものでもあります。これは絶対に間違いのない対策であると同時に、目的から寸分も逸れていないという意味で、確実に効果のある対策です。これ以上に確実な対策は他にありません。



TAC/Wセミナーの「4A基礎講座」では、**このゴール (目的) からの発想**を大事にしていきます。

いきなり本試験問題なんて解けるの？  
**大丈夫です! そこで生まれたのが4A!** 4段階アルゴリズム **次ページへGO!**

2014年の予備試験最終合格率は、3.4%。その超難関

# 超難関試験で “法曹への夢”を

試験に合格しても、その後にはより難易度の高い司法試験が待っている――。

# 合格を掴み取り、 叶えるために必要なものは何か。

法曹を目指すすべての受験生へ

## 「INPUT ▶ OUTPUT」の弊害

—「INPUT」は合格ラインに届いても、  
「OUTPUT」はできるようなにはならない。

司法試験を受験しようと思った当時、私は、友人の勧めもあり、司法試験予備校の入門講座を受講することにしました。司法試験対策の勉強法が分からなかった私は、言われるままに受講して、1年後の短答式試験を受験しました。結果は、マークミスのために1点差で不合格…知識量は、合格ラインに届いていたのです。

しかし、ショックから立ち直りかけたその年の7月、私は、短答式試験に合格したつもりで、その年の論文式試験の問題を解いてみたところ…手も足も出ませんでした。今まで自分は何をしてきたのか！さらに大きなショックを受けました。

そこでようやく、自分が中学・大学受験で一貫してきた勉強法に戻ったのです…それは、本試験の過去問を徹底的に解いて、分析研究すること。これを始めてから、「ようやく本当の勉強が始まった！」という実感すらありました。

結局、「INPUTする力」と「OUTPUTする力」は全く違います。**どんなに多くの知識を「INPUT」しても、それを自動的に「OUTPUT」できるようなにはならない**のです。

—「OUTPUT」▶「INPUT」にすることで、  
学習効率・本試験合格可能性が高まる！

このことは、中学・高校・大学受験業界では当たり前の共通認識ですが、司法試験業界では全くと言っていいほど問題視されていません。

皆さんには、私と同じような遠回りをしないよう、最初から本試験の過去問を解き「OUTPUT」、その上で、そのために必要な限度で知識を「INPUT」することを強くオススメします。

**「いきなり本試験問題を解くなんて無理」って？…今ではそんなことはありません。「4A」を使えば、法的知識のない高校1年生だって解けるんですから！**

まずは次ページを引き続き読んでみてください。

～挫折と成功を経験したTAC/Wセミナー専任講師の中村充が受験生に贈るメッセージ～

4段階アルゴリズム

## 徹底的な「条文主義」

—本試験現場で唯一参照できる条文を使えば、  
必ず出題される「未知の問題」も解ける！

本試験の過去問を分析研究するうちに、私は、論点等の知識ではどうしても解けず、本試験現場で考えて答えるしかない問題が毎年出題されていることに気づきました。このような問題に正解するには？…本試験現場で唯一参照できる条文を使って現場思考するしかない！そのためには、どんな問題でも、論点単位でなく、条文単位で解けるようにしておく必要があります。これは、論点への配点が減り、問題文の事情に条文を単に適用することへの配点が増えた近年の出題傾向にも合致しています。

ですから、**本試験問題を条文単位で解く訓練を積む**とともに、そのために**真に必要な知識を条文単位で整理して「INPUT」**することを強くオススメします。

—条文単位の「テキスト」なら、  
合格に必要な知識だけを完全網羅できる！

しかし、基本書でもテキストでも、開いてみてください。条文が載っていますか？ 条文に書いてある言葉（“文言”といいます）を使わずに、条文を切り刻んでほしいの内容を要約し、すりつぶして加工した上で、文末に申し訳程度に“(○条)”といった条文番号を付けているだけでは？…このように、条文単位の試験対策教材は皆無に等しい状況です。そこで、条文単位で試験対策できる、**「4A条文テキスト」**を新しく作り直しました。受験生時代から今に至るまで蓄積してきた本試験過去問の分析データを駆使し、本試験合格のために無駄・有害な知識は容赦なく削り、本試験合格のために必要な知識だけを載せる方針を徹底しました。結果、条文を載せたのに、どのテキストよりもコンパクトにできました。また、他のテキスト等に乗っていない本試験合格に必要な知識も載っているため、実は網羅性も最も高いのではないかと自負しています。**論点・判例・学説といった無数の知識は、全て条文から生まれてくるもの**ですから、条文単位で知識を整理すれば、そこから生まれる知識を網羅できるのは当然なんですけどね。本試験合格に無駄・有害な知識を網羅していても、本試験合格に必要な知識を網羅していなければ、意味がありません。

## 統一的処理手順「4A」

—「4A（4段階アルゴリズム）」を使えば、  
あらゆる法的問題が解ける！

条文単位で問題を解くうちに、論文答練等で合格点に達した答案も出てきましたが、当たり外れがあって安定しない状態だったので、どんな問題でも安定して合格ラインを確保することができないか？と考えるようになりました。

そこで、**全過去問を統一的に処理できる手順**を分析研究して、合格した論文本試験のわずか1か月前にようやく見出したのが、**「4A（4段階アルゴリズム）」**だったので（詳しくはP14・15をご覧ください）。

合格後も、司法修習や実務におけるノウハウ・経験等も加えて改良を重ねた結果、(新)司法試験・予備試験・法科大学院入試の、主張反論を展開させる出題形式にも合致する形に完成しました。

—さらに、法的知識ゼロでも  
柔軟な思考力を奪わず、法的問題が解ける！

そして、「4A」を使って講義をしているうちに、**法的知識のない人でも本試験問題が解ける**ことも分かってきました。極めつけは、法的知識ゼロの高校1年生約30人に、「4A」を使って予備試験平成23年度論文式試験の刑法の問題を解いてもらったときに、合格答案顔負けの素晴らしい解答が続出したことです。高校1年生でも解けるのか…と、そのときはびっくりしましたが、法的知識がない方が、法の枠に捕らわれず柔軟な思考が展開できるというのは、大学生や社会人の初学者を指導しているにもよくあることでした。やはり、いきなり知識を「INPUT」して、誰もが元々持っている柔軟な思考力を奪ってしまうのはもったいない！だからこそ、「4A」を使って、法的知識ゼロのままでも本試験問題を解く中で、柔軟な思考力を奪わず、さらに向上させるため、本試験合格に真に必要な知識だけを「INPUT」するにとどめてほしいのです。法は、“常識”に基づいて、日本語で書かれている以上、決して法律家の独占に属するものではなく、多くの人に開かれるべきです。裁判員制度等も定着して法の世界の敷居が低くなってきた今、「4A」を使って、全く知識のない状態から最短ルートで、法律家として羽ばたいてください！

TAC/Wセミナー専任講師・弁護士

中村 充 講師

プロフィール

開成中学校卒 ▶ 東京大学法学部卒  
▶ 現在弁護士。

徹底した試験至上主義から辿り着いた絶対的過去問主義に基づき、中学・大学受験、司法試験を突破してきた。その中で培われた受験テクニック・過去問分析手法は他の追随を許さない。司法試験においても、予備試験・法科大学院入試から新旧司法試験に至る全過去問が、頭の中にもデータベース化されている。このデータベースに基づいて、あらゆる法的問題に適用する普遍的な方法論「4A（4段階アルゴリズム）」を完成させた。